

津市型の『公設民営』で切り拓いた新航路

津なぎさまちは、国の補助を受けて県が港湾施設を整備し、市がターミナルと駐車場を整備した港です。さらに、寄付と県の補助を活用して市が建造した2隻の高速船を、民間事業者である津エアポートラインが運航する「公設民営」方式により、中部国際空港とを結ぶ「津航路」がスタートしました。



津市型『公設民営』スタイル

施設の整備



津なぎさまちの整備

津市 15億円
三重県 15億円
(国の補助金5億円を含む)
…計30億円



船舶の建造(2隻分)

津市 2億円
三重県 2億円(補助金)
赤塚グループ 5億円(寄付金)
・株式会社赤塚
・株式会社赤塚植物園
…計9億円



津市型『公設民営』スタイル

航路の運営



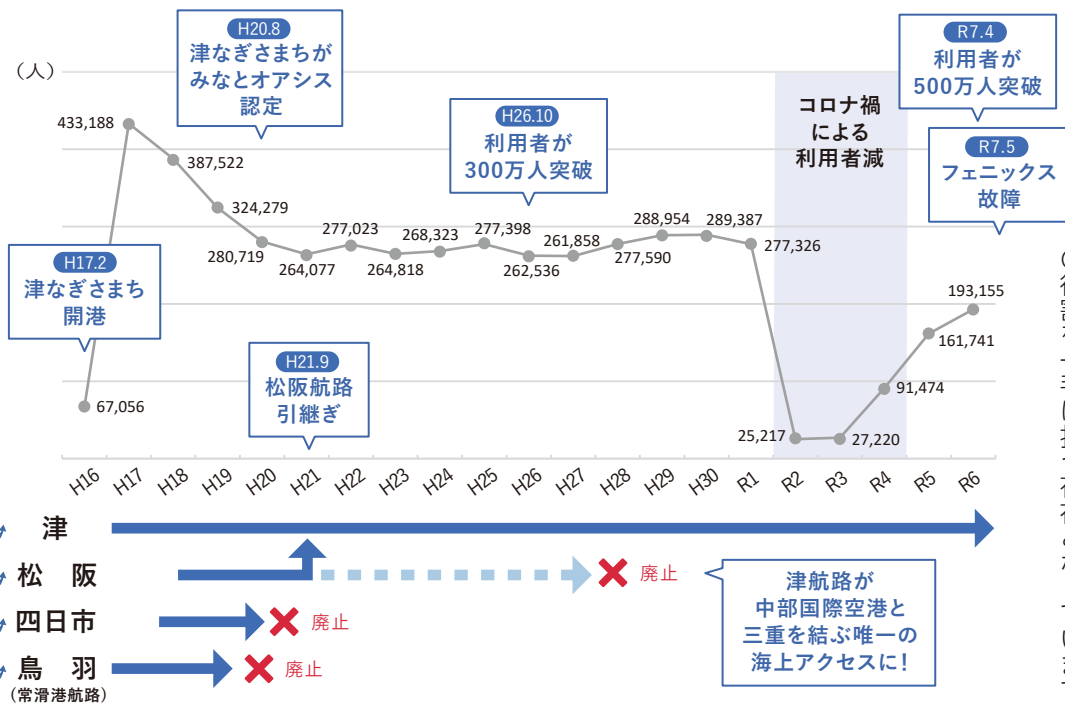
津航路の運営・維持

津エアポートライン株式会社
・運航体制の構築
・運航手続き(許可申請など)
・ダイヤ・運賃の決定
・船舶の維持管理

津市
・津なぎさまちの利用促進
・ターミナル・駐車場の維持管理

02 津航路の歩み

空港のない三重県において、県内初の海上アクセスとして開設された津航路。他の航路が次々と廃止される中でも利用者に選ばれ続け、今ではその役割を一手に担う存在となっています。



ありがとう、フェニックス

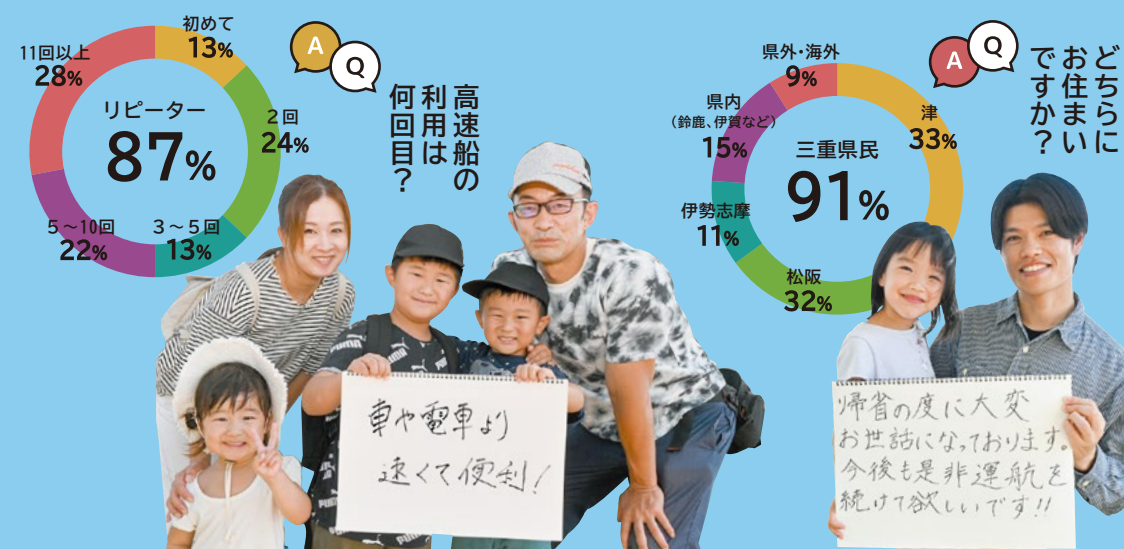
今年5月10日、高速船フェニックスの左舷エンジンが運航中に故障し、なんとか津なぎさまちは帰港しました。フェニックスの設計などを行った日本造船技術センターによると、故障は経年劣化によるものであり、フェニックスのエンジンはすでに生産されておらず部品供給が困難なことから、修繕ではなく新造船の検討を行うことが妥当との意見が出されました。

フェニックスが故障してからは、もう一隻のカトレアのみで運航を継続し、1日あたり7往復の減便ダイヤで対応しています。

現在、フェニックスの代替船舶の運航準備を進めており、後継船の建造について検討しています。

市民以外からも愛される三重の空の玄関口

- ・コストが最高に良い
- ・乗り換えや段差もなく、荷物が多くても疲れない
- ・無料駐車場がとても便利
- ・学割や市民割がうれしい
- ・海外への玄関口が三重にあることが誇らしい



旅行や仕事、帰省、趣味に大活躍! 高速船の利用者100人に聞きました!

※9月7日に広報課が津なぎさまちで実施したアンケートによる